



社会的孤立・孤独の心理的メカニズムを解明しリスクを簡便に評価する

人間科学部 講師 豊島 彩

社会心理学研究室では、孤独・孤立の心理的メカニズムを解明し、従来のアンケート調査に代わる測定ツールの開発をしています。孤独感が高いと、人間関係のとらえ方がネガティブになり、周囲の人とのコミュニケーションが上手く取れなくなることが指摘されています。当研究室では心理学の実験課題を応用し、孤独感が高い人の反応傾向を捉える可視化ツールを開発しています。

「孤独・孤立対策」は2023年12月に改訂された「SDGs実施指針」でも重点事項に挙げられており、人口減少や対人交流の希薄化が進むコミュニティでは深刻な問題となります。

当研究室は「シチズンサポートプロジェクトによる社会的孤立・孤独の一次予防」に参加し、高齢男性を含む地域住民をターゲットとした、新たな居場所「コミュニティー・シェッド」作りの効果にも注目しています。当研究室で得られた基礎的知見を、実践家やシェッド参加者の方々の体験と紐づけて、コミュニティー・シェッドの運営や地域づくりにも貢献することを目指しています。

研究室HP: <https://www.ipc.shimane-u.ac.jp/toyoshima/index.html>



当研究室のイメージ素材

一人の時間のポジティブな面も評価し、社会的交流がどのようにウェルビーイングに影響するのかについて研究に取り組んでいます。



開発中の測定ツールのイメージ

孤独感によって反応傾向が異なるとされる実験課題を応用した、WEBアプリケーションを開発しています。